

七日町通り商店街 (七日町通りまちなみ協議会)

福島県会津若松市

歴史的建造物を活かした城下町らしい特色のある商店街の再生



取組の背景

行政、企業、地域を巻き込んだまちづくりの推進

古くから会津城下町の主要な繁華街としてにぎわっていた七日町通りも、市街地を取り巻くバイパスの開通、道路事情の変化で消費者は郊外店へ移動し、空き店舗が目立つようになってきた。通りの建物の調査を行い歴史的な建造物が数多く残っていることから、「歴史的建造物を保存、修景しながら大正浪漫調の街並み景観を基軸とし、城下町らしい特色のある商店街の再生」を目的に1994年3月に七日町通りまちなみ協議会を発足した。

地元の米穀店が店構えを修景しながら茶屋へ業態変更、空き店舗の洋風館風の建物への改修、無人駅のJR七日町駅を大正浪漫調の洋館に改修しアンテナショップ「駅カフェ」として開店するなど、行政、企業、地域などとともに街づくりを行ってきた。この活動は旅行雑誌やテレビで紹介され、多くの観光客が訪れるようになった。最近の大きな取組は2016年度に国補助採択を受けた「歴史的建造物を活かしたまちなか賑わい拠点づくり事業(現・七日町パティオ)」である。



大正浪漫調の七日町通りの様子

取組の内容

新たな拠点施設の整備でまちの魅力とにぎわいを創出

「七日町パティオ」はかつて倉庫として使われていた明治期の4棟の空き蔵を改修した七日町通りの拠点施設である。路地裏的な回遊性をもった魅力ある施設の出現は商店街の長年の願いであった。会津は豪雪地帯

であるために、冬期には、来訪の多くを占める観光客の来街者が極端に少なくなる。地元住民の人たちも引き付けるカフェやショップの出現は冬期間対策にもつながる。季節によって周辺の農家で収穫した朝採り野菜のマルシェを展開することも可能になり、「まち」と「むら」、地元住民と来街者との交流の場にすることを目指している。

現在、七日町パティオには普段使いのカフェの他、手打そばの店、会津本郷焼(会津美里町)のアンテナショップ、会津地方の地酒を飲み比べできるショップが連ね、観光客や地元住民も利用できる新たな拠点として通りに新たな魅力を生み出している。レトロな空間に感性豊かな若々しいセンスを取込んだ魅力あるテナントが揃うことで、既存の店舗に刺激を与え、商店街全体のレベルアップにもつながっている。

これらの事業を実施していくにあたり、本物の文化や地域資源を発信するコア施設となることを意識しながら、また、地方創生のモデルとなるよう、首都圏からの移住起業家なども想定し、都内のアンテナショップ、北関東の大型ショッピングセンター、行政のネットワークなどの協力も得ながら、戦略的な広報活動やテナント誘致も併せて行っている。

ハード面に関しては、歴史的建造物の保存、修景に取組み、大正浪漫調の街並み景観に力を入れてきた。役員による建物活用に向けた所有者への地道な説得や出資の依頼、行政等の補助金をうまく活用していることも特筆すべき点である。近年は会津新選組まつりやカウントダウン&除夜の鐘、新鮮野菜市(七日町マルシェ)、東日本大震災で会津若松市に移住してきた大熊町民との交流イベントなどソフト面の事業にも取り組んでいる。



観光客や地元住民でにぎわう漆器店



七日町通りの中心にある市民広場のイベント

取組の成果

課題だった冬期間に
地元住民の来街数が増加

七日町通りまちなみ協議会では例年2月(平日2回)に交通量調査を実施している。2017年度は前年度に比べて106%(938人/日)となり、この取組が地元住民の来街に貢献し、冬期間対策として一定の成果につながっている。将来を見据えた長期的な視点でまちづくりしていることから新規に入居するテナントも増え、廃屋や空き店舗が減っている。将来的には空き店舗ゼロを目標にしている。

今後に向けて協議会では、各個店に対し、接客、品揃え、内外装等に関する課題や強みとなる資源調査等を目的とした覆面調査の実施や、福島大学ゼミの協力を得て商店街調査を実施するなど、外部有識者等からの意見も積極的に取入れ通りの魅力向上に常に努めている。更には毎年先進地域等の視察や調査を行い、他商店街等の取組を参考にしながら事業のブラッシュアップも適宜行っている。

実施体制

七日町通りまちなみ協議会は特色のある商店街の復興と地域コミュニティの再構築を目的に発足した。会長・渋川恵男氏を中心に、副会長、事務局が各種交渉、事務等を担当している。特に会長の幅広い人脈を活かして、各地域で成功している会津出身者の資金をふるさと会津への呼び込みに成功する等、まちづくりの仕掛けを連続させている。行政機関、商工会議所、まちづくり会社との連携、専門家や大学教授等のアドバイスを受ける等、多様な意見を反映しながら事業を進めている。

また福島県立会津大学短期大学部や福島県立テクノアカデミー観光プロデュース科の学生の若い感性のアドバイス等も取込み、持続可能で安定的な体制を整えている。

キーパーソンからのコメント

レトロな街並みと若い感性を融合し、来街者100万人を目指す

取組を始める前の七日町通りは空店舗が7割近くのシャッター通りでした。何とかしようと汗だくで素材集めをしたところ、この歴史的建造物を生かすアイデアが浮かびました。建物の所有者や行政、関係団体の理解もあり、明治・大正・昭和の連続性のある城下町らしい街並みの再生が進んでいます。

七日町パティオはおかげさまで様々なテナントに入居いただい

り、若い経営者の方の問い合わせも多くあります。地元住民が遠くてなかなか行けなかった人気の会津本郷焼のショップなどが入居しているのも新しい試みで地域コミュニティの交流の場につながっています。昨年は来街者が約30万人でしたが、将来は100万人を目指し、昔の賑わいを取り戻すために更に取組んでいきます。



七日町通りまちなみ協議会
会長
渋川 恵男

商店街の
概要

古くから会津城下町の西の玄関口として栄えてきた約800mの七日町は、明治・大正・昭和を彩る歴史的建造物が多く立地している。1992年、全国に先駆けて会津若松市景観条例が制定され、以前よりまちづくり活動がはじまっていた七日町通りでは、歴史的建造物を保存、修景しながらレトロな街並み景観を基軸とした城下町らしい街並みづくり推進のため組織化を進め、1994年に「七日町通りまちなみ協議会」を設立した。

この取組は国内観光客だけでなく、地元の人たちも引き付けるようになり廃屋や空き店舗も減っている。2006年度に中小企業庁「がんばる商店街77選」、2015年に観光庁「地域づくり事例集2015」で紹介されている。

- 所在地 福島県会津若松市七日町
- 人口 約12万人(会津若松市)
- 電話／ 090-2984-9113
- FAX／ 0242-33-9918

- URL <http://nanuka-machi.jp/>
- 会員数 112名
- 店舗数 81店舗

- 商店街の類型 観光型
- 主な客層 国内観光客、主婦／50歳代、60歳代